

「蜃気楼が見られなかった時の観光オプション例 北海道・道東」

上村 博道 （日本気象予報士会）

上位蜃気楼（以下、蜃気楼）を観光にすることが難しく感じることのひとつは、あらかじめ設定した旅行期間に、蜃気楼が見られる保証がないということです。特に、飛行機を利用した旅行ですと、蜃気楼が見られそうもない条件だからといって、航空券を簡単にキャンセルするわけにはいきません。

そこで、お客さんたちを案内する立場からすると、蜃気楼が見られなくても、旅行を楽しめるオプションを用意しておくことが大事になります。

今年（2019年）2月に道東へ行った際、気象条件と旅行行程がかみ合わず、蜃気楼を見ることができませんでした。しかし、毎日のように冬の北海道の自然を楽しむことができました。

- ・オホーツク沿岸・根室周辺 氷瀑登り、鳥・動物ウォッチング、流氷など。
- ・釧路・屈斜路湖周辺 ジュエリーアイス、フロストフラワー、SL、温泉など。

この総会の前に企画した内容は、「ライチョウ観察+雪の大谷ウオーク+立山・雄山登山+蜃気楼」という、5月の富山の自然を満喫するという内容です。バードウォッチングにおける機材は、蜃気楼観察には充分過ぎる性能であり、鳥と蜃気楼を同じ場所で観察できることがあります。鳥と蜃気楼は相性がいいので、今後バーダーたちに知ってもらうことも、課題にしています。

蜃気楼を空振りしても、その土地独特の観光内容があれば、案内しやすくなります。地元の人たちにとっては、日常に埋もれた珍しくない内容であっても、旅行者たちにとっては、非日常的な新鮮さに、感動する内容が少なくありません。

また、蜃気楼を観察できる場所へ観光に行く際、案内する側に蜃気楼の知識・情報があれば、お客さんたちをより一層喜ばせて、思い出深い旅につなげることが出来ると思います。